

みじかなエコが、ひとのわをつくる

まちなかの活動が日ごろの何気ない「エコ」につながっています。今回、そんな「エコ」活動に集う「ひとのわ」について紹介します。

都会のまん中の畑で つながるひとのわ

Greeting Greens ～グリグリ・プロジェクト～

我々「エコのわ」編集員は、2006年から「にしすがも創造舎」で行われている、畑を中心に人が集まるユニークなアートプロジェクト」のワークデーに参加してきました。



畑の柵作り

活動前に教室で、今の畑の様子や集まったメンバーの顔ぶれ、今日やることを確認します。この日は豊島区内外から集まった親子連れを中心に約30名の参加者があり、小さい子も大きい子も大人も混ざって和やかな雰囲気です。

畑では、夏の収穫が終わり伸び放題の植物を整理し、前回種を蒔いた葉もの野菜の間引きをしました。ハーブ園では、寂しい冬の畑を彩るシクラメンやビオラなど、きれいな花の苗が植えられました。その横で子どもたちは、アーティストのカブさんがつくった畑マップの色塗りを楽しんでいます。男子たちは、お父さんの指導で電動ドリルを手に畑の柵作り。その頃キッチンでは、女の子とお母さんたちが焼き芋と焼きリンゴの準備中



やけたかな～

窯でマシュマロを焼いてみよう！

です。みんなで持ち寄ったお芋をきれいに洗い、1本ずつぬれ新聞紙とアルミホイルで巻いていきます。それぞれが思い思いの場所でやりたい作業に取り組んでいる雰囲気は、とてもリラックスして楽しそうです。



おいしそうだね

間引き菜のスープでちょっと一息

※にしすがも創造舎は、2001年に閉校した豊島区立朝日中学校の校舎や体育館をそのまま残し、04年8月にオープンしたアートファクトリーです。アーティスト、子どもたち、地域の方々などがいろいろなものを創り出しています。

グリグリ畑のシンボルである大きな石窯に火がつくと、いつの間にか窯の周りに人が集まります。おしゃべりをしながら、串に刺した焼きマシュマロを頬張るとみんな笑顔になります。さらに石窯で焼いた焼き芋がホクホクで甘くておいしいこと！また間引き菜のスープは冷えた体を温めてくれました。一緒に作業をして、全員でいただくので、美味しさが倍増するのでしょうか。

おなががいっぱいになった後は、教室に移動して今後の予定や活動について話し合いました。大人も子どもも同じ立場で考え、自由に意見を出し合います。

エコなことをしようと身構えるのではなく、野菜を作ったり、雑草を抜いたり、自分たちが自然と活動していることが、実はエコだと思います。

そして、畑づくりを通じて出会ったいろいろな世代や考えの人たちによる新しい「ひとのわ」ができ、新しいコミュニティが生まれています。



畑での作業風景

インタビュー

こちらで全て用意するのではなく、みんなで考えながら活動しています。収穫ももちろんですが、それよりも育って行く過程を楽しむことを大切にしています。そして、子どもたちには、畑の体験を通してあるべき自然の姿を伝えてあげたいと思っています。畑というステージを介していろいろな人がつながる場所をめざし、今後は同じような場作りをしている人たちとのネットワークが築けたらと考えています。

(グリグリを運営しているNPO「芸術家と子どもたち」の五十嵐さん、アーティストのカブさん)

●体験させていただいたのは…

特定非営利活動法人 **芸術家と子どもたち**
豊島区西巣鴨 4-9-1 にしすがも創造舎 (旧朝日中学校)

TEL 03-5961-5737 FAX 03-5961-5738
<http://www.children-art.net/>

グリグリ・プロジェクトの活動内容やメンバー募集については、NPO「芸術家と子どもたち」にお問い合わせ下さい。